

絵本の夜・紙芝居の朝

vol. 9

有名なロシアのアニメ『チェブラーシカ』の原作はエドゥアルド・ウスペンスキーの絵本『ワニのゲーナとその仲間たち』で、その題名が示す通り、本来の主人公はチェブラーシカではなく、アニメでは脇役を演じているワニのゲーナです。

ゲーナは、とある動物園に勤務する50歳の平凡なワニで、来園者の見世物になるという職務をこなすために定時まで園内の檻の中で過ごす日々を送っています。

物語はそんな彼がふとした偶然で知り合った健気で愛らしい謎の動物チェブラーシカや邪悪な老婆シャパクリヤクなど、とても癖の強いキャラクター達が次々と登場しながら展開します。

アニメ版はどれも子供向けに多少手加減されていますが、原作の絵本シリーズは、登場する動物と人間たちが発揮する底抜けの善良さと理不尽な悪意がダイナミックに交錯するいかにもロシア的な作品です。

人形アニメ版でゲーナがモスクワからヤルタに向かう列車の屋根に腰かけてアコーディオンを弾きながら歌う『空色の列車』という歌は、ウスペンスキー自身が作詞したものです。

テーブルクロスのように

遠い旅はひろがる

そしてまっすぐ地平線へと届く

誰もが素敵な未来を信じてる

走る 走る 空色の列車

エドゥアルド・ウスペンスキー『空色の列車』 佐倉桃史訳

2018年にウスペンスキーが死去したのち、彼が生前テレビカメラの前で見せていた温和で家庭的な人物像はすべて演じられたものに過ぎず、実際の彼は酒癖が悪く残酷で暴力的な人間だったということが実娘のタチヤナ・ウスペンスカヤ氏によって暴露されました。

でも彼の公式サイトには、瞳が澄んだ、無邪気な笑顔の、いかにも善良そうな初老の男性、といった雰囲気の彼の画像が今でも掲げられています。

訳もなく誰かを傷つけたかも知れない

日付を記したページは閉じる

みんなで新しい冒険へと急ごうよ

速度をあげてください 機関士さん

(同上)

さくらももふみ
佐倉桃史®

